

令和 6 年度熊本市生涯学習庁内関係課連絡会議について

1 会議概要

開催日時：令和 6 年（2024 年）10 月 29 日（火）10:00～

参 加 者：生涯学習庁内関係課（全 37 課）

内 容：令和 6 年度第 1 回熊本市社会教育委員会議の結果を共有するとともに、委員の皆様からいただいた意見を基に、今後の生涯学習推進について検討した。

議題（1）生涯学習の定義について

（2）熊本市生涯学習推進計画（前計画）の総括について

（3）第 2 次熊本市生涯学習推進計画の進行管理について

（4）今後の生涯学習推進について

2 庁内関係課連絡会議で共有した社会教育委員の意見

【生涯学習推進計画の評価方法への意見】

- ・どの課に何を任すのかを明確にすべき。
- ・評価にモチベーションサイクルや期待理論も含めて考えるべき。
- ・各取組の目標値については、きちんとした根拠を持って設定するべき。
- ・講座等に参加した人がどうなったかが見える指標があると良い。

【生涯学習推進に関する意見】

- ・読書活動の啓発や自宅で学習できるコンテンツの充実の具体策を検討して欲しい。
- ・人と人とのつながりに関わるような活動が充実すると良い。
- ・自治会などの役員のなり手不足について、何かしらの手立てを打つべき。
- ・家庭教育について、熊本市としてどういう風に進めていくのかを打ち出すべき。
- ・オンライン講座は、実際に来ることができない方にはとても有効な手段である。
- ・維持・発展を目的とした取組について、姿勢・能力・技術のどれを伸ばすのが整理されると良い。
- ・人づくりについては、姿勢がより重要になる。
- ・姿勢のあり方を言語化して、評価していく仕組みを作るべき。
- ・こどもだけでなく、保護者への日本語教育も大事。
- ・特に重点的なものや新規事業については、メディアに情報提供をするなど、積極的に広報して欲しい。
- ・熊本市として重点として挙げている取組は、どの地域でもやるべき。

3 今後の生涯学習推進に関する協議事項（議事録より）

【議題（1）】

自宅で学習できるコンテンツとして、関係課が現在どのようなものを提供しているのか。
また、今後充実させるとしたらどのようなものが有効か。

(地域教育推進課)

家庭教育セミナーなどの講師を育成するために、教育センターの YouTube チャンネルで動画を配信している。内容としては、こどもとの関わり方や SNS・ゲームをやりすぎてしまう子への対応の仕方、学校と家庭との連携の仕方など。令和 4 年度時点での再生回数は 1,210 回。主に人材を育成している方に動画の周知をしている。

(国際課)

月に 2 回（第 2、4 土曜日）無料でオンラインの日本語おしゃべり会を開催している。令和 5 年度の参加者数は延べ 86 人、ボランティアの活動者数は延べ 60 人。県立大学の学生などがボランティアとして活動している。

(文化政策課)

現代美術館では、収蔵作品をホームページで公開している。また、学校への登校が難しい児童生徒を対象にしたオンライン授業を開催している。市民会館では、大邦楽祭などのイベントを YouTube でアーカイブ配信している。健軍文化ホールやくまもと工芸会館では、YouTube チャンネルを開設し、アーティストや工芸品の紹介を行っている。

文化政策課の事業でアーティストスポット熊本という事業があり、YouTube で事業の紹介動画を配信している。

(文化財課)

YouTube で各記念館、史跡、発掘調査などの紹介をしている。再生回数については、少ないものは 100 回程度だが、西南戦争の記念館の動画などは 1 万回程度。

(動植物園)

Zoo Channel という専門の YouTube チャンネルを持っており、コロナ禍をきっかけに配信を始めた。再生回数は、少ないもので大体 1,000 回、多いもので 13 万回程度。

(男女共同参画課)

性的マイノリティの理解促進を目的として、職員研修用に動画を作成したが、広く市民にも知ってもらいたく、昨年 1 月から熊本市公式 YouTube チャンネルに動画をアップしている。「基礎から学ぶ LGBTQ の現在地」という動画と「基礎から学ぶトランスジェンダー」という 2 本の動画で、それぞれ 1,500 回程度の再生回数となっている。

【議題 (2)】

生涯学習を行った人がボランティア活動や地域活動に参加する仕組みを作るために行政ができることは何か。

(地域活動推進課)

くまもとアプリという事業をやっている。内容としては、ボランティアをする側と提供する側のマッチングをし、活動に対してポイントを付与し、そのポイントを商品や体験に変えるというアプリになっている。今年は市のボランティア活動を中心に実践している。

生涯学習を行った人がボランティア活動や地域活動に参加する仕組みとして、例えば生涯学習で園芸をされている方の活躍の場として、実際に地域で花植えを手伝ってもらおうという機会を創出できるのではないかと思う。また、外国の方の技術を使う場として、通訳

など地域の色々な課題への対応ができるのではないかと考えた。このようなことを実際にアプリの中で募集していくということを来年度から本格的にやっていこうと思っている。

(地域教育推進課)

地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進にかかるモデル事業を行っている。モデル事業の中においては、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターという役割を担っている方を配置している。そのメンバーは、地域に住んでいる方やまちづくりセンターの校区担当職員、公民館の社教主事の方が中心となっており、地域と学校をつないでマンパワー不足や働き方改革への対応ができればと考えている。

ボランティアに関して、ある学校では1年間でボランティアの延べ人数が120人程度だったが、今年はすでに半年で延べ160人を超える方に参加してもらったという事例がある。学校としても非常に効果的であるとの声をいただいている。

最後に、公民館の自主講座等で学んでいる方が、学校で講師として教える際に上手いかないポイントとして、学校が1年間の教育課程を前年度のうちに大体作り上げており、年度途中での追加が難しいことが挙げられる。そのため、前年度のうちに学校とすり合わせて計画を立てると、学校としてはありがたいと思う。また、公民館等で学ばれた方にとっても学んだことを活用できるのではないかと考えている。

(こども支援課)

子育て支援ボランティアの養成として、年に1回養成講座を実施し、登録を行っている。実動としては、児童館や子育て支援センターなどに出向いてもらい、いろいろなイベントの補助などをしてもらっている。今年度の新規登録者数は16人で、登録者の累計は約160人。登録者のうち、約8割の方が実際に活動されている。

(国際課)

地域日本語教室では、地域のボランティアの方々と外国の方とのやさしい日本語教室を開催している。昨年度の登録者数は203人で、活動が延べ3,407人。その他にも、高校生や大学生もキャンプなどのボランティアに参加している。また、ホストファミリーや通訳、翻訳などのボランティアの養成もしている。

行政の役割としては、財政的な支援と仕組みづくりが考えられる。

(障がい福祉課)

障がいへの正しい知識と理解の啓発や障がい者支援の活動に携わるボランティアへの参加を促す目的で、障がいサポーター研修を行っている。講座型とワークショップを取り入れてやっているが、特徴として、行政だけでなく、相談支援センターと一緒に実施している。また、ボランティアと市民活動団体とのマッチングの機会の提供や相談なども行っている。

さらに、保健科学大学の学生や高校生のボランティアの協力を得て、障がい者スポーツ大会を県と共催で開催している。この学生の中には、公認パラスポーツ指導者の資格取得に興味を持つ方もいる。

また、手話奉仕員養成講座も実施しており、現在参加者が増えてきている。

(高齢福祉課)

認知症サポーターの養成をしている。受講者は11万人で、熊本市の人口の15%となっており、政令市の中では1位である。現在、認知症サポーターの方がチームを組んで、地域で見守りを行う「チームオレンジ」という取組を推進している。今後も、地域で認知症の方を支える取組を推進していきたいと思っている。

(健康づくり推進課)

食生活改善推進員と8020推進員の養成を行っている。養成講座を受けた方の大半は、団体（食生活改善推進協議会、8020健康づくりの会）に所属され、活動されている。しかし、どちらの団体も高齢化が進み、辞めていく方もいるため、総数は増えていない。

行政側の支援としては、活動の場の提供や推進員への研修を進めている。

4 今後の取組

- ・自宅で学習できるコンテンツ一覧を作成し、市ホームページへ掲載する。

→1月末に市ホームページへ掲載

- ・中間見直しまでに適切な検証値と目標値の設定方法を関係課とともに検討する。
- ・地域活動のなり手不足対策やボランティアの確保について、関係課と連携して進めていく。